
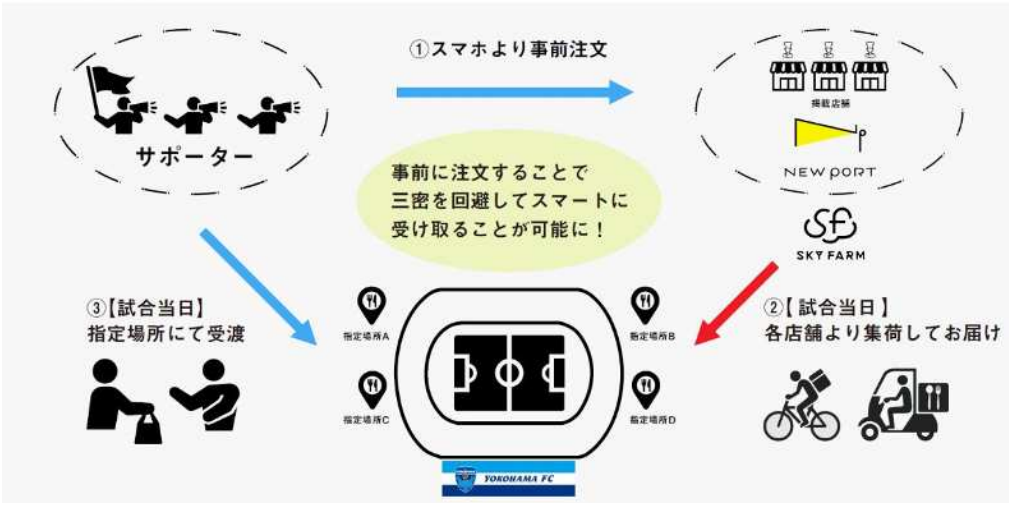



別紙 採択プロジェクトの概要

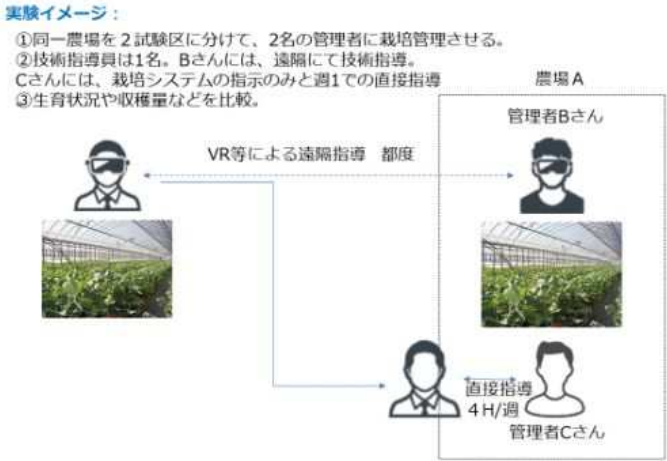
<p>プロジェクト名</p>	<p>スタジアム飲食と地域活性化をデジタルトランスフォーメーションで実現プロジェクト</p>
<p>提案者</p>	<p>株式会社 GINKAN(東京都)、株式会社川崎フロンターレ(川崎市)</p>
<p>概要</p>	
	<p>提案ベンチャーの「シンクロライフ」アプリのモバイルオーダー及びブロックチェーンを活用したポイントシステムを通して、川崎フロンターレのスタジアム内の飲食店と、川崎地域の地元飲食店のマーケティング領域におけるデジタルトランスフォーメーションを推進する。これにより、With/After コロナ時代における安心・安全なスタジアム運営と、地域経済の活性化を実現する。</p>

<p>プロジェクト名</p>	<p>横浜 XR 観光バスツアープロジェクト</p>
<p>提案者</p>	<p>株式会社シナスタジア(東京都)、京浜急行電鉄株式会社(横浜市)</p>
<p>概要</p>	
	<p>京浜急行電鉄のオープントップバスに、提案ベンチャーが開発する、乗り物内で XR (AR/VR) 体験を可能にする技術「RideVision」を搭載することで、世界初の XR 観光バスツアーを実施する。これにより、With/After コロナ時代における、神奈川県発の新しい観光のイノベーションを実現する。</p>

プロジェクト名	スタジアムフードのスマートデリバリープロジェクト
提案者	スカイファーム株式会社(横浜市)、株式会社横浜フリースポーツクラブ(横浜市)
概要	<p>サービスイメージ</p>  <p>①スマホより事前注文</p> <p>事前に注文することで三密を回避してスマートに受け取ることが可能に!</p> <p>②【試合当日】各店舗より集荷してお届け</p> <p>③【試合当日】指定場所にて受渡</p> <p>指定場所A 指定場所B 指定場所C 指定場所D</p> <p>YOKOHAMA FC</p> <p>特定の時間にスタジアム内飲食店舗に行列ができる混雑解消のソリューションとして、横浜FCと連携し、地元の名店の料理を事前に注文し、予約時間にスタジアム内で受け取れる仕組みを構築する。これにより、With/After コロナ時代のスタジアムフードや観戦体験における新しい価値の提供を実現する。</p>

プロジェクト名	SPACER ロッカーを利用した完全非対面での処方薬の受取りサービス実現プロジェクト
提案者	株式会社 SPACER(東京都)、富士工業販売株式会社(相模原市)、株式会社クリエイティブ・ディー(横浜市)
概要	<p>✓ SPACERロッカーによる完全非対面での薬の受け取り</p> <p>オンライン診療 オンライン服薬指導</p>  <p>ロッカー受取り</p> <p>With/After コロナ時代はすべての診療がオンラインに。</p> <p>SPACERロッカー受取りで完全非対面。 当日でも夜間でも好きな時間に受け取れる!</p> <p>オンラインで処方箋を提出後、人ではなく、提案ベンチャーのスマートロッカー「SPACER」を使用して薬を受け取る仕組みを薬局事業者等と連携して構築し、「完全な非対面」での薬剤処方を行う。これにより、With/After コロナ時代における、薬局・利用者双方にとっての「新たな薬の受け渡し」を実現する。</p>

プロジェクト名	ワーケーション活性化施策「遊ぶ広報プロジェクト」
提案者	株式会社 Huber.(鎌倉市)、ANA ホールディングス株式会社(東京都)
概要	<p>キャッチコピー：リモートワークのついでに、まちの広報しませんか？</p>  <p>①都心部にて移住に興味のあるリモートワーカー募集</p> <p>②Huber.にて面談・研修後取材先地域とマッチング</p> <p>③遊ぶ広報が遊びに行き自由にSNSで発信する</p> <p>リモートワーカーに「遊ぶ広報」として地域を知っていただき、SNSで発信いただくための取材費を提供し、地方とワーカーの距離を埋めます。さらに、ワーカーが滞在することで、地域にお金も落ち、観光消費額も向上します。また、ANAとの連携により、国内線2往復(4回搭乗)3万円の定額制サービス実証実験プランをワーカーに提供します。 (*ただし諸条件あり)</p> <p>観光需要が大きく落ち込む中、リモートワーカーを地域に誘致し、リモートワーカーが地域の魅力をSNS上で情報発信する「遊ぶ広報」の仕組みを構築する。また現地ではTomodachi Guideという「暮らしに繋ぐガイド」が街を案内し、その地域をより好きになってもらう。これにより、With/After コロナ時代におけるワーケーション需要を取り込んだ、新たな観光の姿を実現する。</p>

プロジェクト名	数値モデルとVRを活用したリモートワークによる高生産性農事業の実現プロジェクト
提案者	株式会社プラントライフシステムズ(横浜市)、株式会社クリーク・アンド・リバー社(東京都)、アマノ株式会社(横浜市)
概要	<p>実験イメージ：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①同一農場を2試験区に分けて、2名の管理者に栽培管理させる。</li> <li>②技術指導員は1名。Bさんには、遠隔にて技術指導。Cさんには、栽培システムの指示のみと週1での直接指導</li> <li>③生育状況や収穫量などを比較。</li> </ol>  <p>Copyright CREER&amp;RIVER Co., Ltd All Right Reserved.</p> <p>幹事ベンチャーが有する数値モデルを活用した高収益性生産技術に加え、スマートグラス・VRを活用し、農業未経験者に対して遠隔地から農業指導を行う。さらに、発生極小病気画像データを高度化したAIにより判別する。これにより、With/After コロナ時代における、生産効率の高い新しい農事業スタイルを実現する。</p>